収録文書・資料所蔵者別解説

松本寿雄氏所蔵文書・資料

横浜市港南区港南

当家所蔵文書については、石井光太郎氏が1960年代に「主として修験関係」を調査し、その目録を『郷土よこはま』（1966年２月刊行、横浜市図書館＜現在、横浜市中央図書館＞発行）44号に載せられた。当館の調査では、石井氏調査分も含めて所蔵者から提示された全資料を整理し目録を作成した。石井氏が当時調査した資料については、基本的には同氏の分類項目・資料名・編集順を踏襲したが、資料名に括弧で内容を補充したほか、名称の付け方で差出人記載部分署判の位置により名前の順序を入れ替えしたものもある。また、刊本奥書部分は、ほとんど本冊の目録からは省略した。石井氏の目録記載に詳細な記述があるので『郷土よこはま』44号を参照願いたい。石井氏が整理した資料群は、本冊目録の項目２～４である。項目５の石井光太郎氏調査追加分は、石井氏が「未整理」と整理袋に上書きして一括入袋されていた分を当館が整理し作成した目録である。

松本家は、江戸時代に聖護院支配である本山派に属する修験の家（正年行事職）として、権現堂福禅寺と称し活動をしてきた。慶応四年八月、当代の長隆は、白川神祇伯王家から神道葬祭次第を授与された際に姓を松本と称している。翌明治二年五月には復飾し姓名を松本忠雄と改めた。松本氏は、同年十一月に新政府の神祇官から正式に神主職の許状を得て神官となった。以後歴代、現在の当主寿雄氏に至るまで神職を務められている。

また、当家は歴史が古く「先祖代々血脈系図」に依れば祖先の長慶が建久八年六月鎌倉扇ケ谷に住し孝蔵坊と称したのに始まり、嘉暦三年、六代目権現堂権僧都長円の代に亀ケ谷坂に居住し霊扇山と号し鎌倉将軍家の祈願所となったという。その後十五代長恵の明応年中（1492～1500）に鎌倉を退転し、武州杉田森村に移住し修験道職位を務めたと同系図にある。現存する最も古く信憑性の高い文亀三年快延・慶俊連署奉書（1503年）や文禄三年の検地帳以後の古文書に依れば、権現堂は文亀三年頃まで鎌倉扇ガ谷にあったが、文禄三年（1594）には武州久良岐郡内の杉田森村に転じ、寛永二十年（1643）から承応二年（1653）六月の間に現在の地旧松本村に移住したようである。

松本氏は、忠雄氏の父長順が青荷と号し洞雲閣の名称で文化年間から寺子屋を開いた。忠雄氏も亦父の跡を継ぎ、明治五年の廃業まで男50人・女20人に読書・習字・算盤を教えていた。従って当家が所蔵する資料には、古文書・記録・仏書に限らず寺子屋開校で使用した教科書等も含まれている。

所蔵文書・記録等の資料は、文亀三年から昭和四〇年代に至る。資料内容は、当家の家柄により新編武蔵風土記稿に収録された中世文書を初めとする修験関係文書・記録、明治以降の神社に関する文書綴、寺子屋開校により使用されたと考えられる和書・漢籍の外、書籍類（神道書・仏書・経典・）短冊、軸物から構成されており総計約1,600余点に及ぶ。資料全体については、以下のように分類し項目を立てて目録を作成した。分類項目は、資料の固まりにより名をつけた。（　）内はタイトル＝件数である。

１新編武蔵風土記稿収録文書（３タイトル）、２文書記録（52）、３書籍（秘法その他）写本（75）、４刊本（11）、５石井光太郎氏調査追加分（13）、６桐製手文庫一入り文書（31）、７桐製手

文庫二入り文書（10）、８冊・綴・横帳（31）、
９状（60）、10修復文書１（12）、11修復文書２（８）、12神事（６）、13修験史料（10）、14実測図（７）、15小木箱（35）、16大般若経関係（８）、17青木神社（８）、18鹿島神社（36）、19浅間神社（28）、20森浅間神社（９）、21天照大神神社（28）、22神社関係（56）、23別置文書（神社６）、24軸（55）、25短冊箱入り（18）、26漢籍（版本92）、27長隆（松本忠雄）関係（21）以上27種729タイトル（1,183点）。目録外資料に神道・仏書・和書等500点、大般若経600巻がある。

萩原哲夫氏所蔵文書・資料

横浜市磯子区上中里町

当家所蔵文書・資料は、慶長２年（1597）の田畑御水帳を上限とし、下限は昭和38年（1963）の地面実測図である。全資料の分類は、古文書、和書、漢籍、仏書の項目に分けて構成した。旧上中里村の古文書は、慶長２年田畑御水帳の写本が横浜市史編集室にあるだけで、当村を知る唯一の史料群である。江戸時代の古文書は、上記水帳を含め29点と数こそ少ないが、延享２年の田畑石高帳、宝暦六年公事訴訟取扱定式、寛政４年の五人組条目写、寛政九年田畑石高小帳、同十一年麦・真綿・大豆取立石高帳、享和１年の五人組書上帳之写、同２年の武州久良岐郡村々議定証文、当村支配の旗本間宮氏の貸付金の借用証文や間宮氏の知行所（当地）からの玄米受取約束覚等があり、当村落内の有り様を知ることが出来る。明治期に入っても中里村地引絵図や水車の設置願いが有る。
全92タイトル（100点）。

原久三氏所蔵文書・資料

横浜市都筑区池辺町

当家は寛永18年（1641）の没年をもつ人から今日まで続き、現在の当主で久三氏の両親良一・周子氏は13代目に当たる。寛政期には江戸市ケ谷田町で越前屋と称し線香問屋を営んだ嘉右衛門がいた。幕末から明治期の10代目嘉治は明治に入って池辺（いのこべ）村の副戸長を務め、その子庄之助は都田村会議員・都筑郡会議員・郡会副議長を歴任した。庄之助の長男進一は軍籍にあって陸軍中佐となり、二男政治は農業に従事し、居村合併後の都田村役場で収入役・助役に就任すると共に青年団副団長・第二回国勢調査委員を務めた。所蔵文書の内、明治４年から同７年に至る布達・御用留70冊と明治８年の田畑其外反別取調野帳がほとんど揃って所蔵する事実などは役職を務めた当家の家柄を物語っている。

当家文書・資料は、貞享５年（1688）から昭和期に至るもので総数2,154タイトルである。整理では次のように分類し目録を作成した。

冊102件、御用留75件、野帳33件、横帳55件、状315件、地券15件、役場勤務関係文書335件、慶弔類６件、漢籍52件、和書155件、写本122件、図書155件、書画12件、護符10件、その他110件、原進一文書・資料602件。

近藤辰治氏所蔵文書

中井町井ノ口

近藤家は、祖先が甲州に居住し戦国武士武河氏の家臣として仕え、主人の移住に従い当井ノ口村に居住した。武河氏の城（陣屋）絵図には、当家先祖の住居も記載されており、当家ではその絵図を所蔵している。先祖は、江戸時代初期に近藤九郎兵衛と称していた。

所蔵文書は、天正19年（1591）の井ノ口御棹打水帳（慶安元年写）から嘉永6年（1853）の年貢上納につき小前一同が願書を地頭所に提出して承認を得た文書に至る。城絵図は、戦国期の城下の様子を描いており同時代の数少ない史料として貴重である。

合計17点。

小島睦男氏所蔵文書

大井町篠窪

当家の所蔵資料は、神奈川県史編集室調査資料を含めて全体の調査を平成11年度に実施し、所在目録第22集に収録した。その後、当家から外にも資料が出てきたとの連絡を受けて整理したのが本目録である。新々追加資料、国体関係資料、漢籍、和書に分類し目録を作成した。すでに調査した古文書の中で、冊子状態に一括して綴じられながら将来開かぬ危険のある資料を個々の資料ごと綴じられた順に中性紙の保存袋に入れて再整理し目録を作成した。冊の部、村政28がそれである。漢籍、和書は、県史編集時の調査では確認されていた一部と考えられるが、併せて整理し本目録に収録した。収録目録は、261タイトルである。

村政28の資料内容は、慶応4年（1868）から明治8年（1875）の間の文書で、石数の取調書上、村明細帳下書、牛馬取調、道路橋普請、漆代の上納、社寺元除地の定免願、質屋渡世等々と豊富である。新々追加は、明治期が大部分をしめるが、享保14年（1843）の触書一覧、天保13年大廻り様休泊割合帳等がある。

柏木ヒサエ氏所蔵文書

湯河原町鍛冶屋

当家所蔵文書・資料の全体調査及び目録作成は、昭和54年4月から同58年12月の期間に湯河原町史編集室が行った。その全容は、『湯河原町史資料所在目録第3集』に収載されている。資料総数913点。当家は戦前から知られた名主の家であったが、神奈川県史収集資料の中には現物は勿論のこと写真等複製による資料が全く無い。そのため、当公文書館では全資料のマイクロ撮影を実施した。（総コマ数22,149コマ）同時に、アフターケアを含めた酸性紙の整理袋から中性紙整理袋への入れ替えと現存の確認調査を実施した。確認調査により、未目録であった切り図の目録（合計40件）を作成した。

所蔵文書の年代は、享保3年10月（相州足柄下郡土肥鍛冶屋村新田帳）～明治32年（村税、地租税）に至る。江戸時代の史料群としては、18世紀後半から19世紀前半が中心である。延享3年（1746）から慶応3年（1867）迄の年貢割付48点や延享3年から文化7年（1810）迄の船役金割付43点は、いずれも欠年は有るもののほぼ通年で伝来しており、湯河原町内で年貢賦課状況の流れ

を知ることができる唯一の史料である。薪の積み出し、漁業、廻船業の動向や小田原藩国産方によるワサビ（山葵）の開発など生活の実態を示す文書もあり史料群内容は豊富である。明治期の教育関係や農業、兵事関係の雑誌は当時の社会情勢の一端を知る貴重なものである。

水谷隆信氏所蔵文書

湯河原町宮上

当家所蔵文書・資料の全体調査及び目録作成は、昭和44年４月から神奈川県史編集のため実施され、36タイトル290点が『神奈川県史資料所在目録　第16集』に収載された。その後、湯河原町史編集室によって県史編集の目録16集とほとんど重複するが、78タイトル369点を『湯河原町史資料所在目録　第３集』に収載している。

神奈川県史収集資料の中には天保11年10月の万手鏡（村鑑）が１点だけ、写真複製資料として収集されている。当家文書の中には、その外に、明治29年箱根鉄道株式会社設立関係書類等をはじめとする貴重な史料も所蔵されている。そのため、当公文書館では全資料のマイクロ撮影を実施した（総コマ数1,796コマ）。同時に、アフターケアを含めた酸性紙の整理袋から中性紙整理袋への入れ替えと現存の確認調査を実施した。確認調査により、新たな追加史料として11タイトル（12点）整理し目録を作成した。資料総数134件（資料内容は同じであるが、標題の字句に少し異なりの有るのをタイトル数としてかぞえた数）。

文化10年（1813）から大正10年（1921）の養蚕関係資料に至る。

江戸時代資料は６点と数は少ないが、天保11年に写された万手鏡（村鑑）は、寛文12年（1672）の宮上村明細帳を載せており百姓家が六十二軒（本百姓二十九軒）あった。また、湯坪が３つあり、「五体はれたる人にもよし」と湯の効能についても記載されている。明治期以降の資料では、元来入会地であった御料地関係の資料、蜜柑の買い入れに関する資料、箱根鉄道株式会社設立関係書類、明治29年～大正６年間の土肥村歳入歳出予算書等がある。

二見一男氏所蔵文書・資料

湯河原町宮下

当家所蔵文書・資料の全体調査及び目録作成は、昭和54年４月から同58年12月の期間に湯河原町史編集室が行った。その全容は、『湯河原町史資料所在目録第３集』に収載されている。資料総数421件。神奈川県史収集時には資料調査が行われなかったため当公文書館には複写資料等当家資料は無い。そのため全資料のマイクロ撮影を実施した（総コマ数　5,841コマ）。同時に、アフターケアを含めた酸性紙の整理袋から中性紙整理袋への入れ替えと現存の確認調査を実施した。確認調査により、未整理であった文書・資料を追加文書、町議会・委員会資料、都市計画資料、軸物、書籍に分類して整理し目録を作成した（合計167タイトル）。

所蔵文書の年代は、二見家由緒書の安貞元年（1227）～昭和35年（都市計画関係資料）に至る。江戸時代の史料は、18世紀後半から19世紀前半に多く集まっている。

岩澤　満氏所蔵文書

清川村煤ケ谷

当家所蔵文書は、寛文６年（1666）から明治期後半に至るもので年貢や土地に関する資料が中心をしめる。年代の上限文書は、寛文６年６月付け「御縄打煤ケ谷村水帳」であるが、記載内容は個々の農民の土地所有を書き上げた名寄帳である。嘉永４年土地台帳改めを行った際に、寛文６年の「御縄打煤ケ谷村水帳」が改め台帳の対象とされており、そのとき使用したと考えられる原本が所蔵されている。寛文６年の煤ケ谷村における水帳（検地帳）は、村内全ての土地を調査して作成した検地帳の原本が村に存在するが虫害等により開くことは不可能な状態にあるため、当時の検地を知るには貴重な文書である。税金の受取に当たる名主からの年貢皆済請取は、村名主から小割りされた年貢が各農民からどのように納付されたかその実体を知る史料であり、反故となり処分される場合が多い中で、当家ではまとまって伝来していることも大切である。その他証文は、当時の地字名や土地値段の調査に欠くことの出来ない史料である。請取類は、明治期のものではあるが当時の生活必需品の値段を知る良い資料である。全361点。

所蔵文書は、以下のように分類した。証文、請取に漢数字で区分けしたのは、当家で束にして括ってあった状態を示すものである。

分類項目とその主な内容（かっこ内）

冊１～22（明治22年～大正８年、土地関係書類）横冊状１～22（寛文６年～明治26年、御縄打煤ケ谷村水帳＜名寄帳＞）年貢１～34（天保11年～明治８年、年貢皆済請取）証文１～４（元禄７年～明治28年、湯ノ沢・湯上、質地、年貢皆済請取、頼母子講等）請取１～４（慶応３年～明治37年、エンドウ豆代、種油代、醤油代、酒代、茶碗代、小作米代、牛乳代、炭焼き代、干鰯代、足袋代、半紙代、麻代、水引代、下駄代、大麦代、小麦代等）。

石井達也氏所蔵文書・資料

藤野町沢井

当石井家は六郎兵衛を名乗り、江戸時代初期から石井源左衛門家と共に沢井村の名主を務めてきた家である。六郎兵衛家は、沢井村の内、中里・上沢井・落合・栃谷の四集落を管轄し、源左衛門家は日野集落を管轄した。永禄２年（1559）成立の小田原衆所領役帳に登載された石井源左衛門の一族、源七郎（後の六郎兵衛）が初め沢井村内の古田に居住し、小田原北条氏の滅亡後は後の六郎兵衛が中里に土着した。（木村礎編「封建村落　その成立から解体へ」）当家で最も古い文書は、慶長９年の「相州津久井之内沢井村御地詰帳」であるが、本書に検地案内人として六郎兵衛の名が見られる。所蔵文書の年代は、慶長９年を上限とし、下限は大正３年に至る。文書の中核は、江戸時代の沢井村名主史料である。内容は、山間における沢井村が近世村落として成立し幕末に至る展開と村人の生活様相を知ることの出る資料が豊富にある。御林風折立枯れお払い木小前伐渡帳、御林山松立ち枯れ書上帳等々山村ならではの資料もある。検地帳、村明細帳、宗門人別改帳、年貢割付状、年貢皆済目録等村の基本資料が多く伝来している。調査は、神奈川県史編集室が、それ以前に明治大学日本史研究室が整理した方法により整理した分を当公文書館でアフターケアを兼ねた中性紙の保存袋入れ替えを実施した。未整理であった資料については、資

料の内容ごとに項目を立てて整理し目録を作成した。資料全体は、1,748タイトルでその内550タイトル当館で整理し目録を追加した。

資料の構成は、［冊の部］支配（30タイトル、寛文４年～明治17年）、村政（55、貞享～明治10年）、村況（16、元禄12年～明治10年）、戸口（30、寛文４年～明治３年）、土地（61、慶長９年～大正３年）、年貢（48、寛永18年～明治５年）、凶救・救恤（18、元文４年～明治４年）、商業・金融（15、文政９年～明治26年）、普請（11、寛永21年～明治３年）、林野（22、寛文４年～明治11年）、交通（５、寛延４年～天保14年）、寺社（31、延享４年～明治９年）、雑（５、享和年～明治18年）、私文書（１）（27、天明４年～明治27年）、私文書（２）（13、文政４年～明治26年）、冊追加（124、享保６年～明治44年）、［状の部］状（466、慶安３年～明治28年）、状年貢（190、寛永８年～明治５年）、証文・請取（22（317）、元禄年～明治５年）、＊文書（107、万治３年～昭和61年）、絵図（120、安永６年～明治７年）、漢籍（54冊）、和書（134冊）、軸物（124軸）、錦絵（５）、拓本（３）、その他（３）以上である。当公文書館が整理した部分は、＊文書以降の分類項目内資料である。

神奈川県古文書資料所在目録

第24集

編集発行　神奈川県立公文書館
〒241-0815　横浜市旭区中尾1－6－1
☎　(045) 364-4456
FAX (045) 364-4459

発行日　平成17年2月1日

印刷所　ツルミ印刷株式会社
〒230-0034 横浜市鶴見区寛政町9－4
☎　(045) 508-6686
FAX (045) 508-7955